

平成27年度 キャリア教育推進地域事業推進校実施報告書

研究テーマ

学校名：須崎市立朝ヶ丘中学校

探究的な力を育むための授業づくり ～思考力・判断力・表現力を高め、学力向上をめざした指導方法のあり方～

1. 取組内容

本校は本年度「探究的な力を育むための授業づくり」をテーマに研究を進めている。キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」の中で言うと、主に「課題対応能力」を育てる事に重点を置いている。しかし、校内の三部会を中心としたこれまでの取組も継続して行っている。仲間づくり部会では「人間関係形成・社会形成能力」の育成とともに、二者面談（キャリアカウンセリング）にも取組んでいる。生徒指導部会では社会につながるルールやマナーに気づかせることで「自己理解・自己管理能力」を伸ばすことをめざしている。今行っている取組を大切に、キャリアの視点でつけない力を明確にし、より良い活動となるように見直していきたい。

【めざす子ども像】

- ① 当たり前のことが当たり前でできる生徒 「自己理解・自己管理能力」
- ② 進路実現のために、小さな達成を積み上げることができる生徒 「課題対応能力」
- ③ 将来を切り拓いていくために、人とつながり、
人を思い、人の役に立とうとする気持ちを持った生徒 「人間関係形成・社会形成能力」

【取組計画】

	生徒指導部会 「自己理解・自己管理能力」	授業づくり部会 「課題対応能力」	仲間づくり部会 「人間関係形成・社会形成能力」
主 な 取 組 内 容	・「あいさつ運動」への取組（部活動） ・「はきもの」への取組 (生活安全委員) ・学校生活のルールやマナーに関わる 掲示物の作成 ・リノベーションデイ（生活安全委員） ・「教室美化コンクール」（美化委員） ・3年「車いすバスケット」の体験 ・高知工科大学ブルーノート事業 1年総合「仕事ってなあに」 ・須崎工業出前授業 ・須崎高校出前授業（防災教育） ・3年赤ちゃんふれあい体験 ・生徒指導スタンダードの作成	・「人の事を大切に聴く」ことへの取組 (学習委員) ・授業規律に関わる掲示物作成 「授業心得十ヶ条」など ・小中合同授業研究 (探究的な授業づくり： 3年数学科・1年理科) ・「授業評価コンクール」（学習委員） ・全国学力・学習状況調査の分析 ・職場体験への取組指導	・1年生歓迎行事（執行部・部活動） ・3年プロジェクトアドベンチャー ・「地域清掃ボランティア」（執行部） ・仲間づくりへの取組（代表委員） 1年ドラゴンカヌー 2年修学旅行 3年校外学習 ・「より良い学校生活について考えよう！ ～生徒総会に向けて～」（執行部） ・二者面談 ・「七夕夢通り」（執行部） ・「読み聞かせボランティア」 ・夏の部活動体験 ・「体育祭ありがとうメッセージ」（執行部） ・「文化発表会」 (執行部・代表委員・音楽教科委員) ・小学校6年生への交流行事（執行部） ・小中合同支援会による生徒理解

【取組紹介】

ここでは本年度の特徴的な取組を中心に紹介する。

1. 生徒指導部会の取組

生徒指導部会では生活安全委員や美化委員とともに学校生活でのルールやマナーについて考えることで、他者への思いやりや優しさを育んでいく。また自己の行動について考えさせることで自己理解を深め、自己の感情コントロール力をつける事につなげていく。そして、本年度は高校生や大学教授に教わる事で、上級学校への意識を高め、自己の生き方についても考えさせる。

①学校生活のルールやマナーに関わる掲示物の作成

〈つきたい力〉・主体的に動き、良い行動の習慣付けようとする力



今年未来にかがやく子ども育成型連携事業に取り組んでいる。その中で小中連携の取組として共通の掲示物に取り組んでいる。その発展として学校生活におけるルールやマナーに関する掲示物を様々なところに貼り、自己の行動を正すことが他者への思いやりにつながることを伝えている。

②3年車いすバスケット体験



〈つきたい力〉

- ・他者の話に共感し、受け入れる力
- ・多様な価値観を尊重する力
- ・前向きな考え方ややる気を維持する力

人権学習における障がい者理解として車いすバスケットボールの選手に来ていただき、車いすバスケットを体験した。生徒は体験を通して障がい者スポーツの大切さを学ぶとともに、選手の方々から前向きに努力することの大切さを学んだ

③1年総合 高知工科大学ブルーバード事業「仕事ってなんだろう？」

〈つきたい力〉 キャリアプランニング能力：働くことの意義



まだ就きたい仕事に具体的な目標の無い1年生にとって、今回の訪問授業は将来について多方面から広く考えることができるものであった。特に印象的だったのは幸せを5段階で伝えたことであった。「与えられる幸せ」から「与える幸せ」へ、仕事においても同じであって、自分のことだけを考えている人は、仕事が合わないことを理由に辞めてしまうことにつながるのかもしれない。このような考え方は仕事を選ぶときにも大変重要であると感じた。

④1年総合 須崎工業出前授業

〈つきたい力〉キャリアプランニング能力

地元の高校である。須崎工業高校は本校の卒業生たちが多く進学しており、生徒にとっても身近な高校である。今回はその先輩たちが学校紹介をするとともに、授業で習った実技を披露してくれた。器用に配線をつないでいく様子に生徒は感動の声をあげていた。須崎工業高校は工業高校であるので、就職先へのつながりが強い高校である。卒業先の進路を聴くにつれ将来への興味が湧いた生徒も多い。



⑤全学年総合 須崎高校出前授業「ソッセンジャーの心得」(防災教育)

〈つきたい力〉自己の身を守るとともに他者を助けようとする力

須崎高校の生徒が防災教育で学んだことを中学生に伝える授業を行った。高校生が発表した防災をテーマとした劇の動画を見たり、防災グッズの使い方を目の前で见せるなど工夫のある教え方で、本校の生徒も楽しく学ぶ様子があった。後半は友達同士応急処置の学習を行い、身も守ることの大切さや他者を助けることの大切さを学んだ。



2. 授業づくり部会の取り組み

授業づくり部会は本年度研究の中心的部会である。主に学習規律にかかわることや授業の評価の在り方、また加力学習の運営や授業規律に関わる掲示物作成などを行っている。本年度は探求的な学習を取り入れた授業研を行うことで研修を深め、生徒の「課題対応能力」を育む方法をみんなで探っていく。

小中合同授業研究(探求的な授業：3年数学科・1年理科)

〈つきたい力〉・情報を集め、本質を理解し、原因を追求しようとする力

・他者の意見をふまえた、建設的な討議や新たな視点を入れた討議をする力



3年数学



1年理科

数学では授業の初めに課題を示し、まず生徒一人ひとりがその課題に取り組む。その後、班になって

自分の考えを伝え、そして班で課題解決に取り組ませるものであった。生徒は「平方根」という新しく学ぶ数の不思議に興味を持つ楽しい授業となった。一方理科ではジグソー法という学習方法を採用し、教員にとっても新たな提案となり、大変勉強になる学習形態であった。

3. 仲間づくり部会の取組

仲間づくり部会はまず中1ギャップの課題に取り組むため、1年生の歓迎行事やPAなどを活用した仲間づくりに取り組んでいる。そして須崎市名物ドラゴンカヌーにチャレンジさせることで仲間意識を高め、学級の団結を図っていく。また2年生は修学旅行という大きな行事に向けて、そして3年生は校外学習に向けて代表委員が中心となって計画を進めることで、学級のリーダーとして育ててもらいたい。このように仲間づくり部会では生徒同士の交流行事を計画するとともに集団が高まるための方法を研究している。



① 地域清掃プロジェクト

〈つきたい力〉・お互いに協力して物事を進める力

・社会に貢献できる事を考え、実践しようとする力



昨年度より生徒会執行部では地域清掃ボランティアを行っている。これまでは部活動単位の参加で、主に学校の周辺の清掃を行っていた。しかしゴミが少なく、地域の方にもあまり見てもらえない現状があった。そこで調査を兼ねて生徒会執行部のメンバーでマルナカ周辺に出向き、清掃活動を行うことにした。その取組準備中に地域の方から一緒に活動させてほしいという連絡があり、当日は地域の方と協力して行うことができた。予想以上の成果があり、生徒の方は地域の方と町をきれいにすることができて楽しかったと達成感を味わっていた。今後はボランティア人数を増やし、活動範囲を広げられればと考えている。

② 二者面談

〈つきたい力〉相談活動を通して自己の感情を理解し、言葉にして表現する力

本校では一昨年より二者面談に取り組んでいる。これはQ-U分析を活用したものとしてスタートしている。学校生活で不安となっていることについて相談を行ったり、卒業後の進路相談などを行っているが、中でもQ-Uのプロット図で「学校生活不満足群」の生徒のケアが大きな目標となっている。今後はキャリアカウンセリングの視点を入れ、この面談活動を通して、生徒に付けてもらいたい力を明確

にし取組んでいきたい。



③ 七夕夢通り～短冊に夢や志を入れて～
〈つきたい力〉キャリアプランニング能力
将来の夢や展望を持とうとする力

テーマを「未来に輝く自分になるために、短冊に夢や志を入れて飾り付けをしよう！」とし取組んでいる。書く内容は「夢や志」にかかわる内容や身近な成長目標などにし、将来への展望を持たせることや、他者の価値観から学び、自己成長につなげることを目的にしている。本校の南校舎と北校舎をつなぐ空中廊下には学級ごとに美しく飾り付けた笹を飾り、夢あふれる通路となっている。立ち止まる生徒の顔は笑みがこぼれ、学校全体があたたかな雰囲気包まれる良い活動となっている。

④ 読み聞かせボランティア
〈つきたい力〉・他者に貢献できることを考え、
実践しようとする力

本校では以前より小学校へ絵本を読み聞かせに行くボランティア活動を行っている。本年度は未来にかがやく子ども育成型連携事業において、生徒の交流活動として活性化させようという話し合いが持たれた。そこで本年度は新たに小学校の学級の実態に合わせた絵本選びや小学校の先生も中学生の本読み指導に参加してくれた。



⑤ 夏の部活動体験
〈つきたい力〉・他者に働きかけ、やる気にさせる力
・他者の相談にのり、指導する力

これも未来にかがやく子ども育成型連携事業において生まれた新たな交流活動である。夏休み中に自分を成長させるために新たなことにチャレンジすることが目的であるが、中学校の部活動を知ってもらい良い機会であり、中学生にとっても小学生に教えることで自己有用感の高まりにつながったと考える。

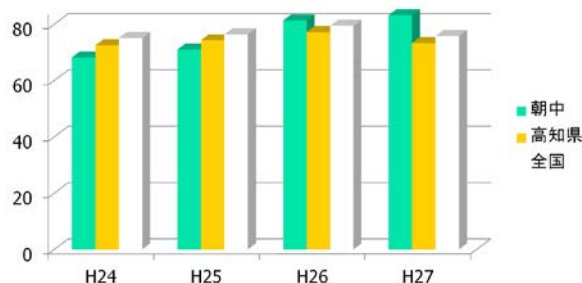


以上が本年度の特徴的な取組である。今ある学校の取組を生かしてキャリアの視点でつきたい力を明確持って、行事に取組むことがキャリア教育では重要なことであるが、十分に見直しができていないのが現状である。また、行事や取組同士のつながりや、三年間でつけさせたい力を発達段階や系統性を持って計画することについてはまだまだである。しかし三年間キャリア教育について取組んだことで行事を見直す良い機会となっているし、生徒や学校の雰囲気も良くなっていると感じている。

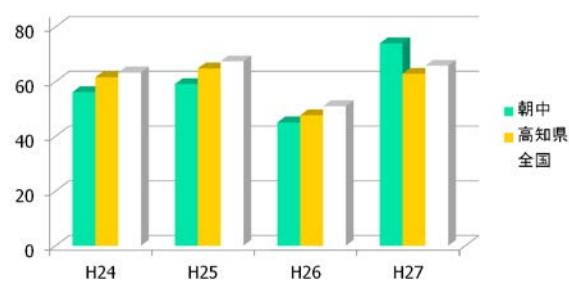
2. 成果

ここでは、特に本年度の全国学力・学習状況調査結果から、今までの取り組みの成果を振り返ってみる。以下は、各教科のH24からH27の推移。（ ）内は本年度、全国正答率との差違。

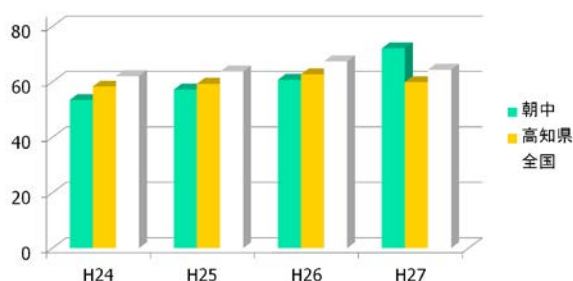
【国語A】（＋7. 4）



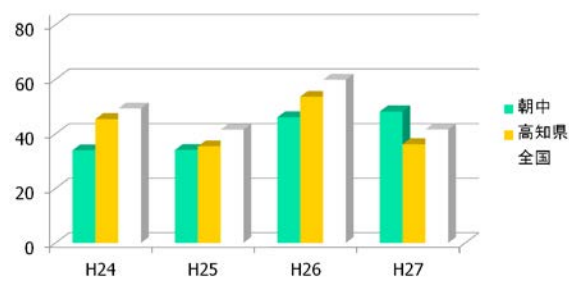
【国語B】（＋8. 2）



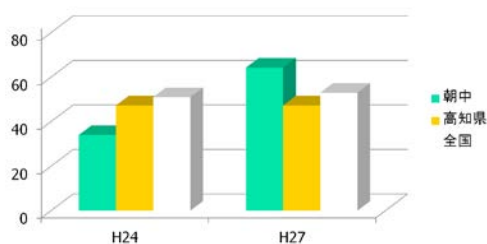
【数学A】（＋7. 7）



【数学B】（＋6. 6）



【理科】（＋11. 3）



本年度は、全ての教科において全国正答率を上回ることができた。生徒質問紙においても、「学校の規則を守っていますか？」全国比＋13. 4、「1、2年生の時に受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか？」全国比＋17. 1、「学習塾（家庭学習を含む）で勉強をしていますか？」全国比＋16. 8、「あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っ

て学級のきまりをなどを決めていると思いますか？」全国比＋10. 9、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか？」全国比＋6. 2、「授業の中で分からないことがあったらその場で先生にたずねる」全国比＋17. 2、であり、生徒自身が課題意識を持ち、取り組むことができはじめている。その結果、体育祭や文化発表会などにも波及し、成果が伺える。

3. 課題とその改善策

基礎的な学力については、ある一定成果を挙げることができた。しかし、応用力等を問われるいわゆるB問題については十分とはいえず、これからも大きな課題である。引き続き、思考力・判断力・表現力を高め、学力向上をめざすためには、授業規律の確立、自尊感情の育成等が重要であり、授業においては、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを踏襲していく。それは、①自己決定の場を与える手立て、②自己存在感を与える手立て、③共感的人間関係を育成する手立てである。また、「探究プロジェクト」と命名している一人一研究的な取り組みは効果的であり、基礎学力の定着と学力の向上を支える基盤となっている。総合的な学習の時間の見直しも含め、自分で考え、判断する力を育成することを引き続き取り組んでいく。